

「新規動脈硬化マーカー“血管圧容積関係”の実臨床的有用性に関する研究」 の情報公開文書

1. 研究の対象

名古屋大学医学部附属病院、名古屋共立病院通院中で、動脈硬化性疾患の既往のある方、動脈硬化の危険因子を持っている方、動脈硬化の促進因子として知られている生活習慣を持つ方、それ以外の方（健常人）で、「新規動脈硬化マーカー“血管圧容積関係”の実臨床的有用性に関する研究」の文書による説明を受け参加に同意された方。

2. 研究目的・方法・研究期間

＜目的＞硬化性疾患（心筋梗塞、脳卒中など）の予防には、臨床症状の出現する前に動脈硬化病変の有無と程度を把握し、危険因子の管理、治療を行う必要があります。そのためには、動脈硬化の進展度の診断は極めて重要となります。

現在動脈硬化の評価法には色々ありますが、血圧計のように簡便でありつつ、信頼性が高く、正確に評価できる装置が開発されれば、動脈硬化の一次予防（病気になる前に、病気の原因を取り除き、病気の発生を防ぐ予防措置をとること）に有用です。

動脈硬化性疾患の既往のある方、動脈硬化の危険因子を持っている方、動脈硬化の促進因子として知られている生活習慣を持つ方、それ以外の方（健常人）に、血管圧容積関係曲線を測定し、現在使われている動脈硬化を調べる検査の結果と比較することにより、血管圧容積関係曲線が、動脈硬化の新しい指標となるか検討します。

＜方法＞血管圧容積関係曲線を測定します。通院中の患者さんは、診療情報を収集、血管圧容積関係曲線と比較検討します。対照（健常人）の方は、年齢、性別、生活習慣について伺います。

＜研究期間＞実施承認日から 2025 年 12 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

● 研究のために実施する調査・検査項目

血管圧容積関係、血圧・脈拍

● 収集するカルテ情報等

背景（性別、年齢、既往歴、合併症、生活習慣、治療内容）、臨床所見および検査[一般診察所見：体格、身体所見、尿所見、血液検査、画像診断：血管造影法、MRI(磁気共鳴画像診断装置)・MRA(MRI を使った血管撮影)や MDCT(multi-detector raw CT)、血管超音波（頸動脈エコー、腎血管エコー等）、生理検査:血管機能検査法の ABI（足関

節上腕血圧比)、baPWV(脈波伝播速度)、CAVI(心臓足首血管指数)、FMD(血流依存性血管拡張反応検査)]

(ただし、生命倫理審査委員会の許可を得て、調査資料項目が追加される可能性があります。)

4. 外部への情報の提供

名古屋大学医学部附属病院通院中の方、健常者の方は、外部への情報の提供はありません。名古屋共立病院通院中の患者さまは、名古屋大学腎臓内科へデータ提供されますが、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、名古屋共立病院の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

- 主たる研究機関

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科学

- 共同研究機関

名古屋大学予防早期医療創成センター 吉田安子

名古屋大学大学院工学研究科機械システム工学専攻

松本健郎

LaView 株式会社

益田博之

名古屋共立病院

春日弘毅

(ただし、共同研究機関や責任者が追加される可能性があります。)

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、研究参加の同意を撤回したい場合、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科学 電話 052-744-2185

研究責任者： 教授 丸山彰一